

経済情勢 (10月の経済指標を中心に)

全国、中国ともに、景気は、一部に足踏みがみられるものの、緩やかに持ち直している。
先行きについては、米国の通商政策の影響、日中関係の動向、金融市場の変動、物価上昇などによる経済活動への影響が懸念される。

(全国)

個人消費	一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数（10月）は前年を上回った
設備投資	機械受注（10月）は、前年を上回った 2025年度の設備投資は前年を上回る見通し
公共投資	公共工事請負額（10月）は前年を上回った
輸出	輸出金額（10月）は前年を上回った
生産動向	横ばい圏内で推移している
雇用情勢	改善の動きに足踏みがみられる

(中国)

個人消費	一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数（10月）は前年を上回った
公共投資	公共工事請負額（10月）は前年を下回った
輸出	輸出金額（10月）は前年を下回った
生産動向	低水準にあるものの持ち直しに向けた動きがみられる
雇用情勢	改善の動きに足踏みがみられる

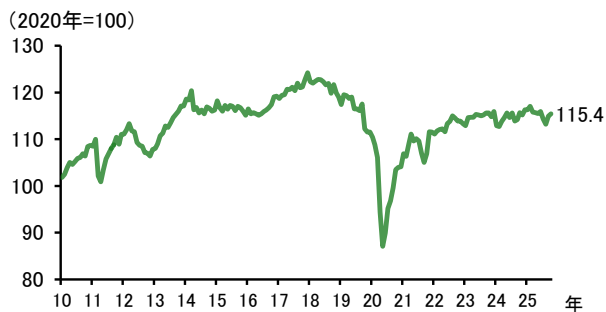
1. 景気動向指数・景気ウォッチャー調査(10月)

景気動向指数(全国C I)は、一致指数は2か月連続で上昇、先行指数は6か月連続で上昇した。
景気ウォッチャー調査(現状判断D I)は、全国は6か月連続で上昇、中国は3か月連続で上昇した。

● 景気動向指数(C I)

(一致指数)

・115.4(前月差+0.5ポイント)と2か月連続で上昇。

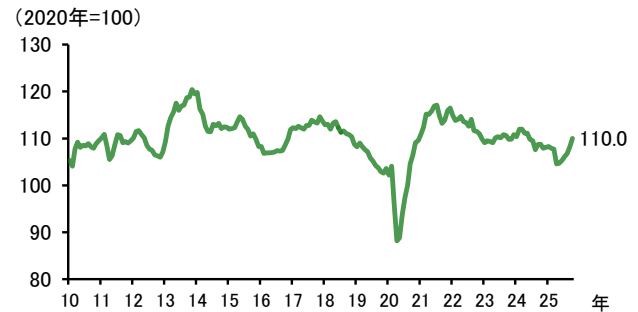


C I 一致指数(前月差)	0.5
---------------	-----

指標名	寄与度
耐久消費財出荷指数	0.36
鉱工業生産指数	0.23
商業販売額(小売業)	0.19
鉱工業用生産財出荷指数	0.18
営業利益(全産業)	0.12
商業販売額(卸売業)	0.03
労働投入量指数(調査産業計)	0.00
輸出数量指数	▲0.06
投資財出荷指数(除輸送機械)	▲0.17
有効求人倍率(除学卒)	▲0.38

(先行指数)

・110.0(前月差+1.8ポイント)と6か月連続で上昇。



C I 先行指数(前月差)	1.8
---------------	-----

指標名	寄与度
鉱工業用生産財在庫率指数(逆)	0.69
新設住宅着工床面積	0.62
日経商品指数(42種総合)	0.23
消費者態度指数	0.20
マネーストック(M2)	0.18
東証株価指数	0.13
最終需要財在庫率指数(逆)	▲0.03
新規求人数(除学卒)	▲0.16
中小企業売上げ見通しD I	▲0.16
実質機械受注(製造業)	
投資環境指数(製造業)	

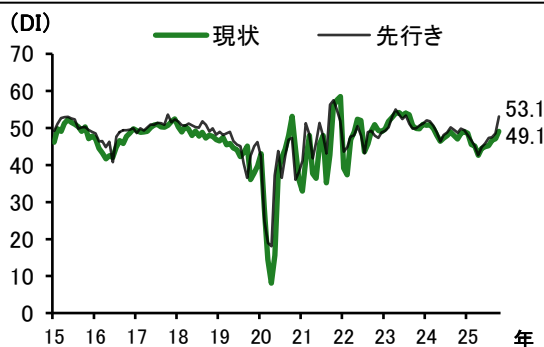
注: 1. 景気動向指数(CI)は景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としている。資料は内閣府「景気動向指数(速報)」。

2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するため作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3本の指数がある。

● 景気ウォッチャー調査(D I)

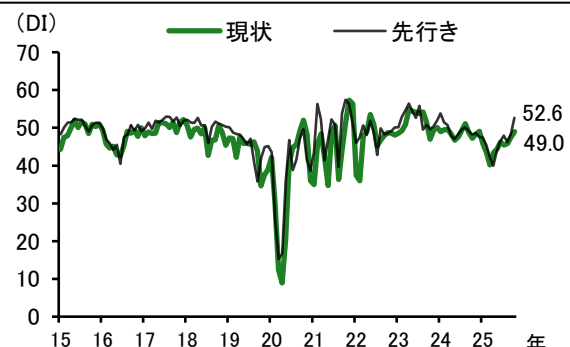
(全国)

- ・現状判断D Iは、49.1(前月差+2.0ポイント)と6か月連続で上昇。
- ・先行き判断D Iは、53.1(前月差+4.6ポイント)と6か月連続で上昇。



(中国)

- ・現状判断D Iは、49.0(前月差+1.4ポイント)と3か月連続で上昇。
- ・先行き判断D Iは、52.6(前月差+4.2ポイント)と2か月連続で上昇。

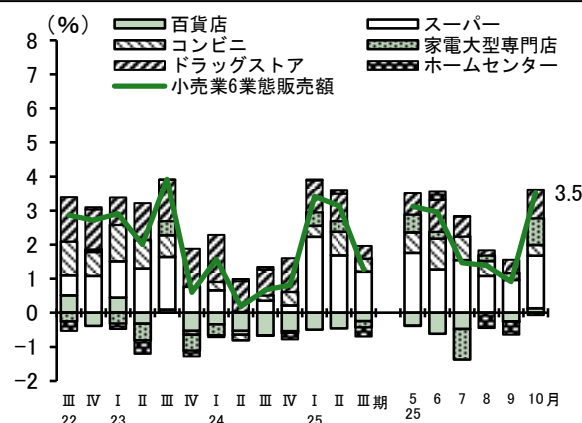


注: 1. 景気ウォッチャー調査は、地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的としている。資料は内閣府「景気ウォッチャー調査」。

2. 季節調整値

全国、中国ともに、一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる。

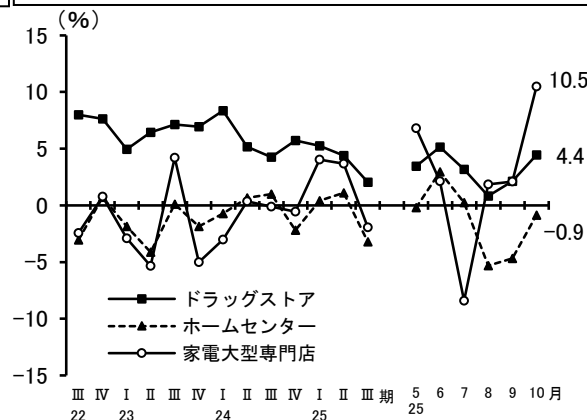
<p>(全国) スーパー、ドラッグストアなどを中心に増加し、47 カ月連続で前年比プラス（前年同月比+4.8%）。小売業6 業態全体の消費傾向としては、買い上げ点数の減少や安価商材へのシフトといった節約志向がみられるものの、コメなどを中心に食料品価格の高騰が販売額を押し上げている。</p>	<p>(中国) 12 カ月連続で前年比プラス（前年同月比+3.5%）。全国同様、節約志向がみられるものの、食料品価格の高騰がプラスの主要因となっている。コメの価格高騰等を受けて、スーパー、ドラッグストアで販売額が増加したほか、パソコンの買い替え需要があった家電大型専門店も伸長したことから、プラス幅が拡大した。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



○ 百貨店・スーパー・コンビニエンスストア販売額
対前年伸び率

- ・百貨店は、ハンドバッグなど身の回り品がよく売れたほか、月後半からの気温低下により冬物衣料等が好調に推移したことなどから、2 カ月ぶりに前年比プラス（前年同月比+1.8%）。
- ・スーパーは、コメなど食料品価格の高騰による販売額増加が全体を押し上げているほか、気温の低下で冬物食材等も良く売れたことから、12 カ月連続で前年比プラス（同+5.0%）。
- ・コンビニは、節約志向による買い上げ点数の減少などがみられるものの、おにぎりや菓子類など食料品の販売額が増加したことなどから、2 カ月ぶりに前年比プラス（同+1.2%）。

- ・ドラッグストアは、価格上昇によるコメの販売額増加に加え、調剤薬局の新設により調剤医薬品等が好調だったことから46カ月連続で前年比プラス（前年同月比+4.4%）。
- ・ホームセンターは、気温低下に伴い暖房用品等に動きがみられたものの、節約志向の高まりからDIY用品などが低調に推移し、3カ月連続で前年比マイナス（同▲0.9%）。
- ・家電大型専門店は、OSのサポート終了に伴いパソコンの買い替え需要がみられたほか、携帯電話やテレビの販売額も増加したことから、3カ月連続で前年比プラス（同+10.5%）。

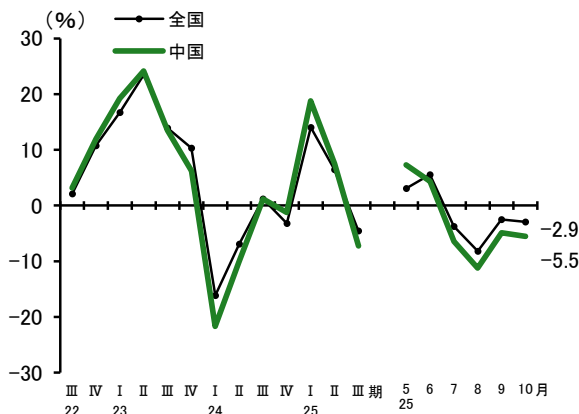


3 ■ エネルギー地域経済レポート No.618 2026.1

● 新車登録・届出台数(乗用車) [対前年伸び率]

(全国) 軽乗用車が増加したものの、普通、小型乗用車が減少し、4カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲2.9%)。新型車効果により軽乗用車が好調だったものの、一部メーカーで発生している納期の長期化などのマイナス要因が全体を押し下げた。

(中国) 軽乗用車が増加したものの、普通、小型乗用車が減少し、4カ月連続で前年比マイナス(同▲5.5%)。新型車効果により軽乗用車が好調だったものの、一部メーカーで発生している納期の長期化などのマイナス要因が全体を押し下げた。

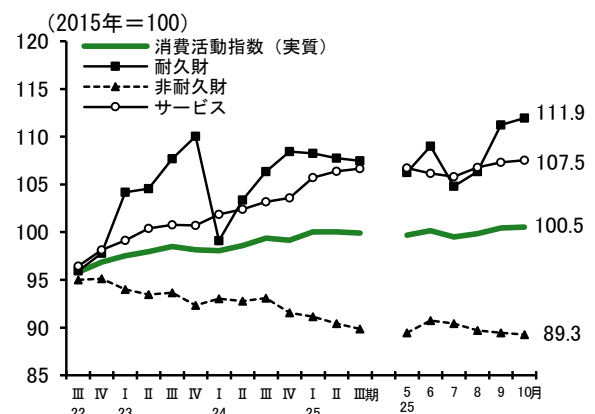


資料：中国運輸局「新車登録・届出状況」、
(一社)全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

● 消費活動指数(実質)

(全国)

- 消費活動指数(季節調整済)は100.5(前月比+0.1%)と、3カ月連続で前月を上回った。
- 耐久財は、スマホやパソコンなどが好調に推移したことなどから、前月を上回った。
- 非耐久財は、衣料品や食料品が低調に推移したことなどから、前月を下回った。
- サービスは、飲食業などが低調だったものの、宿泊業などが好調に推移したことなどから、前月を上回った。



注：1. 季節調整済指数
2. 消費活動指数の形態別ウエイトは、耐久財 8.9、非耐久財 40.5、サービス 50.7
資料：日本銀行「消費活動指数」

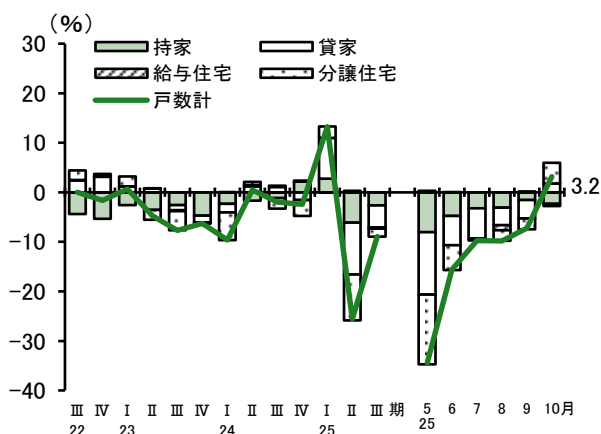
3. 住宅投資(10月)

新設住宅着工戸数は、全国、中国ともに前年を上回った。

● 新設住宅着工戸数 [対前年伸び率]

(全国)

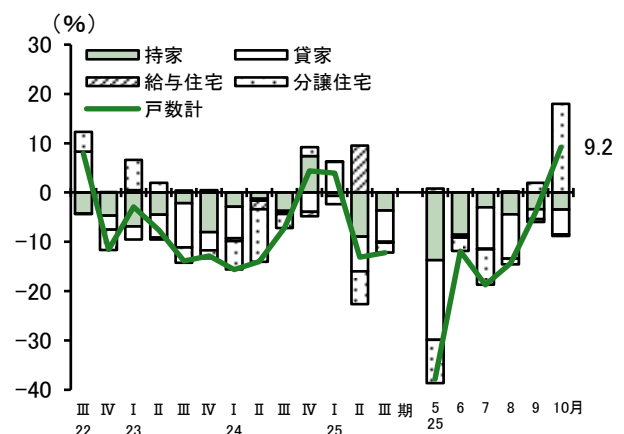
建築基準法等改正施行前の駆け込みによる影響が緩和されたことなどから、7カ月ぶりに前年比プラス(前年同月比+3.2%)。内訳では、持家、給与住宅が減少したものの、分譲住宅、貸家が増加した。



注：持家、貸家、給与住宅、分譲住宅は、新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度
資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」

(中国)

全国同様、3月に発生した駆け込みの影響が緩和されたことなどから、6カ月ぶりに前年比プラス(前年同月比+9.2%)。内訳では、貸家、持家、給与住宅が減少したものの、広島、岡山を中心に分譲住宅が増加した。



4. 設備投資・公共投資（10月）

機械受注（全国）は、製造業、非製造業ともに前年を上回った。

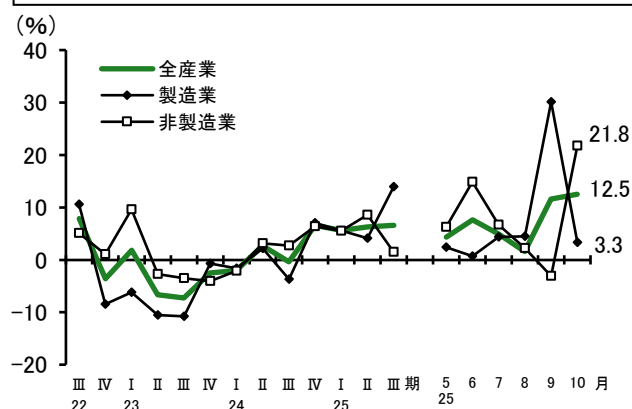
公共工事請負額は、全国は前年を上回ったものの、中国は前年を下回った。

2025 年度の設備投資は、全国、中国ともに前年を上回る見通し。

● 機械受注額 [対前年伸び率]

（全国）

- ・ 13 カ月連続で前年比プラス（前年同月比+12.5%）。
- ・ 製造業（同+3.3%）は、パルプ・紙・紙加工品などが減少したものの、非鉄金属、電気機械などが増加したことから、13 カ月連続で前年比プラス。
- ・ 非製造業（同+21.8%）は、大型案件のあった運輸業・郵便業が大きく増加したほか、金融業・保険業なども増加したことから、2 カ月ぶりに前年比プラス。



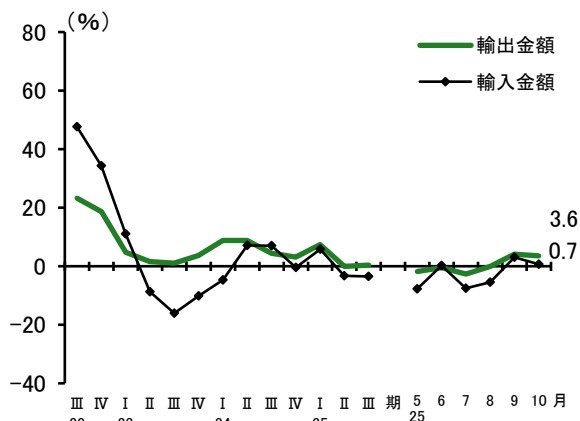
5. 輸出・輸入(10月)

輸出金額は、全国は前年を上回ったものの、中国は前年を下回った。

● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・輸出金額は2カ月連続で前年比プラス(前年同月比+3.6%)。円安への振れ等が輸出金額を押し上げた。米国向けの半導体等製造装置などが減少したものの、AI需要の高まりなどを受けてアジア向けを中心に半導体等電子部品が増加したほか、欧州向けの原動機なども増加した。
- ・輸入金額は2カ月連続で前年比プラス(同+0.7%)。医薬品や原油などが減少したものの、米国からの航空機類や、原動機などが増加した。



6. 生産動向 (10月)

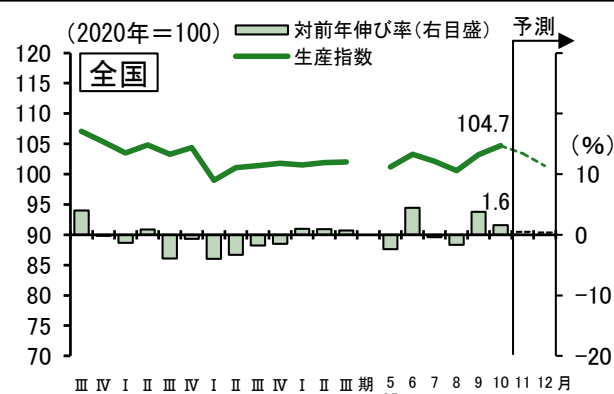
(全国) 横ばい圏内で推移している。

(中国) 低水準にあるものの持ち直しに向けた動きがみられる。

● 鉱工業生産指数 (総合)

(全国)

- 生産指数 (季節調整済) は、104.7 (前月比+1.4%) と2カ月連続で前月を上回った。化学や汎用・生産用・業務用機械などが低下したものの、米国の追加関税が引き下げられたことなどを受けて自動車が生産増となったほか、電気機械なども上昇した。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比+1.6%と2カ月連続でプラスとなった。



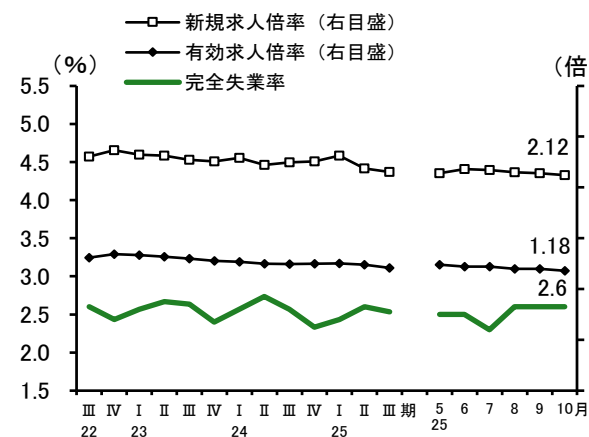
7. 雇用情勢(10月)

全国、中国ともに、改善の動きに足踏みがみられる。

● 完全失業率、有効求人倍率、新規求人倍率

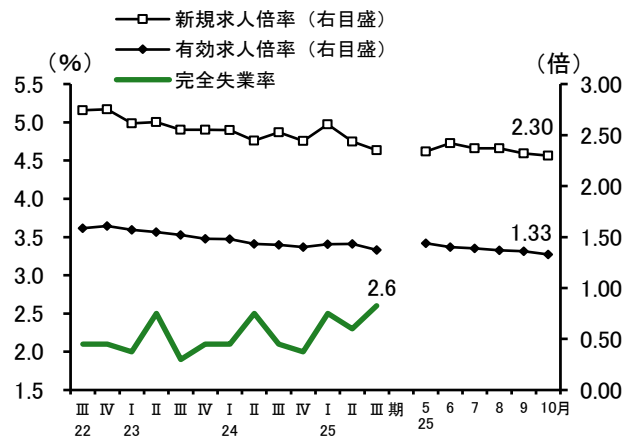
(全国)

- ・完全失業率は2.6%(前月差±0.0ポイント)と横ばい。
- ・有効求人倍率は1.18倍(同▲0.02ポイント)と2カ月ぶりに低下した。
- ・新規求人倍率は2.12倍(同▲0.02ポイント)と4カ月連続で低下した。

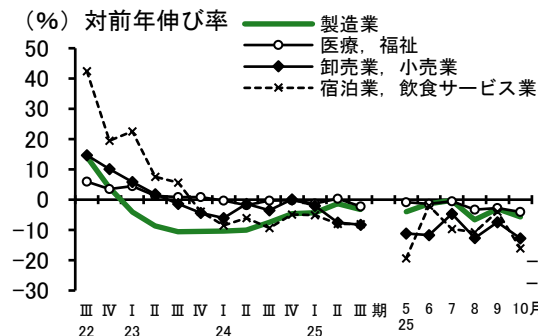


(中国)

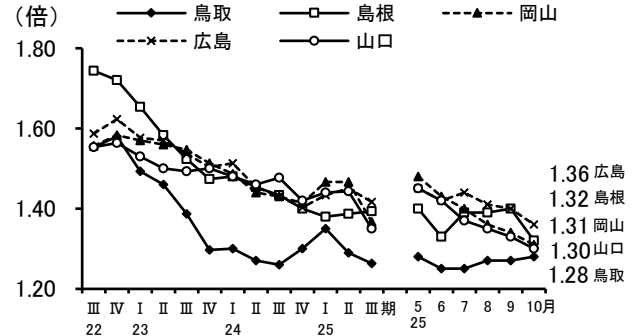
- ・有効求人倍率は1.33倍(前月差▲0.03ポイント)と6カ月連続で低下した。
- ・新規求人倍率は2.30倍(同▲0.02ポイント)と2カ月連続で低下した。



主要産業における新規求人数の推移(全国)



有効求人倍率の推移(中国5県)

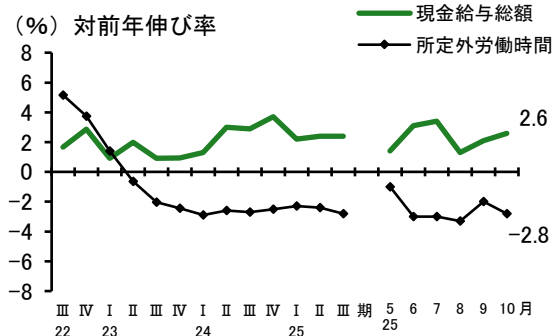


注: 完全失業率の月次、有効求人倍率、新規求人倍率は季節調整値、完全失業率の四半期は原数値
資料: 総務省「労働力調査報告」、厚生労働省「職業安定業務統計」

● 現金給与総額、所定外労働時間

(全国)

- ・現金給与総額は46カ月連続で前年比プラス(前年同月比+2.6%)。
- ・所定外労働時間は、28カ月連続で前年比マイナス(同▲2.8%)。うち製造業は4カ月連続で前年比マイナス(同▲0.7%)。



注: 1. 事業所規模5人以上の指数(2020年=100)の対前年伸び率 2. 最新月は速報値
資料: 厚生労働省「毎月勤労統計調査」